

# 六本木未来会議

デザインとアートと人をつなぐ街に



## CREATOR<sup>No</sup> INTERVIEW 42

### クライン ダイサム アーキテクト Klein Dytham architecture

クライン ダイサム アーキテクトは建築、インテリア、公共施設といった複数の分野のデザインを手掛けるマルチリンガルオフィスである。RCAを修了したアストリッド・クラインとマーク・ダイサムにより1991年に東京に設立。国際的評価も高く、Design for Asia、World Architecture Festival、Wallpaper Design Awardなど受賞多数。クライアントにはグーグル、ツタヤ、ソニー、ナイキ、資生堂等が並ぶ。インスピレーションとクリエイティブなエネルギーに溢れる街、東京を拠点とするKDaの斬新なアイデアと作品は、日本特有の新しいものに対する渴望やものづくりにおける素材とディテールに対する高い感性、そして絶えず変化する都市の生活環境に影響を受けながら形成されている。

東洋と西洋のそれぞれ優れたところを取り入れることにより、KDaは新鮮な視点で独特のプロジェクトを創造し続けている。アストリッド・クラインとマーク・ダイサムは20秒 x 20枚のプレゼンテーションで知られるPechaKucha Nightの考案者であり、東京・西麻布のアートスペース、スーパーデラックスの共同設立者でもある。2014年現在、PechaKucha Nightは世界750以上の都市で開催されるプロジェクトとなっている。



クリエイターインタビュー

『面白いものばかりの街に変えるには?』

歩いて見て体験して楽しめる  
六本木アートルート計画。

photo\_tsukao / text\_kentaro inoue

「六本木アートナイト 2014」で行われた、六本木未来会議の公開インタビューのゲストは、クライン ダイサム アーキテクトのアストリッド・クラインさん(写真下)とマーク・ダイサムさん(写真上)。代官山 蔦屋書店や Google Japan オフィスの設計を手がけるほか、いまや世界 750 都市に広がったプレゼンテーションイベント「PechaKucha Night」を考案したことで知られています。来日して 25 年になる 2 人は、この日配布されていた、「ふるさとシール」をつけて登場しました。

#### 六本木の思い出はタクシーの乗車拒否!?

**アストリッド** ちょうど今、肩に「ふるさとシール」(ユーラシア大陸版)を貼っていますが、私の親はドイツ人。イタリアで生まれ育って、フランスとイギリスの大学に行ったあと、1988 年に日本に来ました。マークはイギリス出身です。

**マーク** もう 25 年前ですね。きっかけは、大学の図書館で『新建築』とか『GA JAPAN』とかを見たこと。もちろん全部日本語なんだけど、本当に面白くて、日本に行ってみたくて思いました。

**アストリッド** ロンドンとかパリやローマもそうなんですけど、古い街は保守的で、あんまり新しいことができない。でも日本は、すごく大胆で意外な建物を建てているんです。「こういうのをつくったんだ! こんなのが建ってるんだ! 信じられない!」 それで見に行こうと。

**マーク** まだインターネットがなかったから、日本に行くためのプランニングをするのも大変。でも今はすごく簡単になりました。日本語は、まだちょっと ..... 大変ですけど(笑)、頑張ります。

**アストリッド** 伊東豊雄さんの建築設計事務所に入れたのは、すごくラッキーでした。とってもいろいろな勉強をさせてもらって、たぶん今ここにいるのは、伊東さんのおかげだと思います。

**マーク** その頃の六本木というと ..... まあ、防衛庁ですね(笑)。長い壁がずーっと続いてて、となりには小さなロックバーがありましたね。すごいヘンな。

**アストリッド** 夜遅く、いえ、朝早くまで、若いからよく遊びに来てたんですね、六本木に。すごくよく覚えているのは、高速道路の下でタクシーが拾えなかったこと。外国人を見ると、運転手さんが「英語ができないから」って言って停まってくれなくて。風が吹いていて、すごく寒くて疲れる。六本木は楽しいけど、帰り道はいつも嫌な思い出という。

**マーク** バブルの頃だから、金曜日の夜なんてタクシーは全然いないですね。当時は、六本木でデザインやアートといえば、アクシスくらい。今日もアートナイトをやっていますが、六本木がデザインとアートの街になったのは、本当にびっくりしました。

**アストリッド** 昼間も夜も、どんどん魅力的でステキな街になってきた。でも、もっともっとエンターテインメントな街になったらいいんじゃないかと思っています。

#### **SAKURA CAFE、Google Japan や YouTube を手がける。**

**マーク** 六本木では、いろいろなプロジェクトもやらせてもらいました。たとえば、ミッドタウン・ガーデンの芝生広場での「SAKURA CAFE」。ちょうど6年前ですね。

**アストリッド** ベンチやハイテーブルが桜の花びらの形をしていて、座ってお茶を飲みながら、ちょっとゆったりできる。お花見のシーズンを、もっともっとピンクにしたかったんですね。

**マーク** ライトアップした夜も、すごいキレイ。

**アストリッド** テーブルをどかしたときには、そこだけ色が変わってランドアートになったんです。色が変わった、ようは芝生が傷んでしまったということで、ミッドタウンさんには怒られちゃったけど(笑)。

**マーク** 他には、六本木ヒルズにある Google Japan のオフィスや YouTube のクリエイタースタジオの設計も。フロアプランが大きいのと、4フロアもあるので、自分がどこの階にいるかわからなくなる。だから、Google ロゴと同じカラーのウォールペーパーでナビゲーションして。

**アストリッド** Google は世界中のいろんな国にあります。せっかく日本なんですから、この国のレファレンスも入れようと。もちろん本物ではありませんが、銭湯や屋台があったり、畳の部屋があったり。





#### SAKURA CAFE

2008年3月29日から4月13日、東京ミッドタウン開業1周年企画のひとつとしてオープンした期間限定のカフェ。桜をイメージしたさまざまなオリジナルメニューを提供した。



#### Google Japan のオフィス

六本木ヒルズ森タワーの高層階にある Google の東京オフィス。卓球台や音楽室、バーといったユニークな設備のほか、壁紙に伝統的な柄を採用するなど、随所に日本的なモチーフを取り入れたデザインでも話題を集めた。

#### イベントスペース「Deluxe」から「SuperDeluxe」へ。

**アストリッド** 六本木との関わりはもう長くて、実は昔、私たちの事務所は麻布十番の商店街からすぐのところにあったんです。「Deluxe」という名前です。今のシェアードスペースのような場所。スペースが広いから「デラックス」。インテリア的には倉庫みたいな感じで、全然デラックスじゃなかった(笑)。スペースがあるから、いろんなイベントやりました。シェアしていた5つの会社のひとつが「東京エール」というビールを醸造する会社だったので、それを飲むためのイベントとか。

**マーク** スローガンは「Thinking and Drinking」ですね。

**アストリッド** そのうちイベントがどんどん増えてしまって、仕事とコンフリクトして。まだ六本木ヒルズができあがる前に、六本木通り沿いに新しいスペースをつくりました。

**マーク** 麻布十番は Deluxe、六本木は「SuperDeluxe」。もっと大きくて、だいたい 250 人くらい入れます。2002 年の東京デザイナーズウィークのときにスタートしたから、もう 12 年ですね。



クライン ダイサム アーキテクト 建築家  
KLEIN DYTHAM ARCHITECTURE / Architects

photo\_tsukao / text\_kentaro inoue

### なぜ「PechaKucha Night」は世界 750 都市に広がったのか。

**アストリッド** 私たちの仕事は建築設計ですが、それはデিজョブで、SuperDeluxe はナイトジョブ（笑）。イベントをやると、いろんな人と会うことができ面白いんですが、毎日何かないと、ビジネスプランとして成り立たない。平日の火曜日とか水曜日に、どうやって人を呼べばいいかと考えてはじめたイベントが「PechaKucha Night」なんです。

**マーク** 「PechaKucha」のコンセプトは「Show and Tell」。建築家はおしゃべり好きな人が多くて、普通にプレゼンテーションすると、いっぱいのスライドが入ったパワーポイントをつくって話が長くなる。だから、20 枚のスライドで 20 秒ずつというフォーマットを決めてコンパクトにしました。合計 6 分 40 秒、終わったらそれで終わりの「デザインカラオケ」（笑）。

**アストリッド** 面白いのは、若い人も年上の人も、誰でも参加できるんですね。しかも、マイプロジェクトとかマイブームとか、クリエイティブの話だったら何をしゃべっても OK。たとえば面白い旅に出たとか、カジュアルな友だち同士のコミュニケーションみたいな。六本木から世界中、今では 750 都市に広がりました。

**マーク** 今月（2014 年 4 月）だけで、世界で 138 イベント。なぜこんなに広がったかという、フォーマットが誰でも使えてタダだから。今思うと、10 年前にした大きなミスですね（笑）。

**アストリッド**（無料にしたのは）残念でしたね（笑）。有名な人だったら、展示会やレクチャーもできるし、雑誌に載ることもある。でも、若い人たちが作品をつくっても、発表の場がない

んですね。これならたった 20 枚の写真と、ちょっとしたエピソードさえあれば、簡単にプレゼンテーションできます。

**マーク** 有名な人も学生も同じステージ。学生さんはしっかり練習をしているから、すごくスムーズ、でもふだんいっぱいのスライドを使って話すのに慣れている有名な建築家のほうが、ナーバスになっていますね。



#### **PechaKucha Night**

アストリッド氏とマーク氏が考案したプレゼンテーションイベント。2003年2月、SuperDeluxeで初めて行われ、その後ヨーロッパを中心に世界中へ広まった。現在、ウェブ上でも2000以上のプレゼンが閲覧できる。

<http://www.pechakucha.org/>

**ミッドタウン～国立新美術館～ヒルズを「アートルート」に。**

**マーク** そうそう、今日は、未来の六本木についてのアイデアを持ってきました。それは、東京ミッドタウンから、ナショナルアートセンター（国立新美術館）を通して、六本木ヒルズまでの抜ける裏道を「六本木アートルート」にするというもの。ミッドタウンもキレイ、ナショナルアートセンターもキレイ、ヒルズもキレイ、でも ..... この間はすごく残念ですね。

**アストリッド** むしろキレイすぎといってもいいくらい。歩いていても見るものがなんにもないし、面白さも足りない。歩きたくならないんじゃないかな。

**マーク** 21\_21 DESIGN SIGHT やナショナルアートセンターでアートを観て、次に六本木ヒルズの「アンディ・ウォーホル展」に行きたいと思ったら、このルートしかない。ほんとにすごくつまらない。どうしましょうね（笑）。

**アストリッド** せっかくステキな施設があるんだから、間も頑張ったほうがいい。六本木には日本中、世界中からたくさんの方が来るんだから、散歩道も考えたほうがいいんじゃないですか？

**マーク** 世界で一番有名なアートルートといえば、ニューヨークのハイライン。

**アストリッド** 昔は鉄道が走っていたところを公園に変えて、アートを置いたりしています。東京だったら、今工事中の東横線の線路をそのまま残して、歩けるようにした感じ。



#### 六本木アートルート

今回、2人が提案してくれたのは、次のようなコース。ミッドタウン・ガーデン (21\_21 DESIGN SIGHT)→東京ミッドタウン西交差点→国立新美術館→裏道→六本木六丁目交差点→地下連絡歩道→六本木ヒルズ(森美術館)。

#### ハイライン

高架貨物線跡地を空中緑道として再開発した、ニューヨーク市の公園。線路と枕木、さらに植物が調和する景観の中にアート作品が展示され、新たな名所として注目されている。

#### 街なかのグリーンをランドスケープの視点から考える。

**アストリッド** どうやったらこの道を、散歩道としてもっと楽しくできるのか。ひとつ目は、植物。今は景観条例があって、建物を建築すると敷地の何%かを植物に使わなければならないんですね。でも、だいたいは植木をポンポンと置いているだけで、あんまり感動的じゃない。ランドスケープの視点から考えれば、もうちょっと道路のほうに植物を伸ばしてもいい。このミッドタウン・ガーデンなんて、すごく気持ちいいですよ。

**マーク** 表参道ヒルズが工事中のときに、仮囲いのデザインを担当しました。ただの仮囲いじゃつまらないので、もっとフレッシュなグリーンウォールができれば面白いと思って。

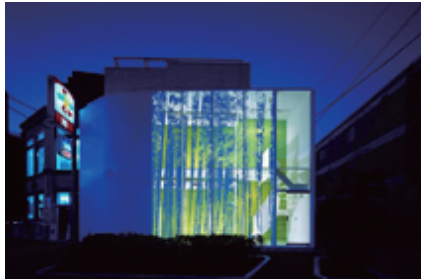
**アストリッド** 有栖川公園の向かいにある acrylic というアクセサリブランドに、竹林のイメージでファサードをつくったことも。小さな敷地なんですけど、そこが公園になったらいいんじゃないかなというイメージ。ちょうどオープンしたのが七夕だったので、オープニングに来た人や、通る人に短冊を書いてもらったんですね。





#### 表参道ヒルズの仮囲い

2003～05年、表参道ヒルズ建設の仮囲いを活用した壁面緑化プロジェクト「グリーングリーンスクリーン」。274mにわたって、ヘデラやローズマリーなど約10種類の植物がストライプ状に配置された。



#### acrylic

坂雅子氏によるジュエリーブランドで、2005年にショップをオープン。ファサードのガラスには、カッティングシートによって竹やぶをイメージした風景が描かれている。



クライン ダイサム アーキテクト 建築家  
KLEIN DYTHAM ARCHITECTURE / Architects

photo\_tsukao / text\_kentaro inoue

「必ずアートを置かなければならない」というルールをつくる。  
アストリッド 2つ目は景観条例と同じように、アート条例をつくること。「必ずアートを置かなけ



ればならない」というルールになったら面白い。そうやって、もっと意識させたほうがいいと思うんです。

**マーク** もうなくなってしまったけれど、ラフォーレ原宿の前に、グリーンをイメージしたディスプレイケースをつくったこともあります。六本木アートルートも、そういうイメージ。

**アストリッド** ウインドウドレッシェね。ただ商品が並んでいるだけじゃなくて、アーティストとコラボして、店先をちょっとしたギャラリーにする。

**マーク** 若いアーティストとかデザイナーにチャンスあげたいんです。もちろん有名なアーティストじゃなくて、学生でもいい。たとえば、不動産屋のウィンドウって、物件の広告が貼ってあるだけで面白くないでしょう。上は不動産の情報だけど、下のほうにアート作品が隠れてる。歩きながら、どこにアートがあるか探せる、アーツレジャーハンティング。

**アストリッド** 『ウォーリーをさがせ!』みたい(笑)。あとは、街なかの掲示板や看板でゲリラアートをやる。

**マーク** 横断歩道にペインティングするのもいい。駅の床にあるような広告用のシールを使って、道路にアートを貼ったり、100円パーキングの場所を借りて展示ができるとか。

**アストリッド** パーキングのフェンスも退屈。学生たちに、このフェンスを使って何か面白いことをやってもらう。今回のアートナイトでも、古着を集めて巨大なスカートをつくっていますよね。古着をウィービングして(編み込んで)ウォールピースにするとか。

**マーク** それから、六本木は高速道路も大変 ..... ですね。ほんとに汚いし暗い。

**アストリッド** 楽しさとかワクワク感がないし、ちょっと怖いよね。六本木交差点の周辺はいろいろ工夫してキレイになっているけど。存在感が大きいものだからこそ、もっともっと楽しくできたらいい。高速道路の側面とか下にミラーをつけて、まわりの景色がリフレクトされるようにするのはどう? まるで、川の水面に太陽が当たってキラキラ光るように。高速道路は、水は流れていないけど車が流れているから、その逆バージョンで。ミラーがあると、存在感って消えるでしょう。



#### ラフォーレのディスプレイケース

ラフォーレ原宿のエントランスに設置された「木のモニュメント」。それぞれの木はグラフィック用のライトボックスやショーケースの役割を持つ。

**"面白くないと怒られる" 運動。**

**アストリッド** 道でも高速道路でも、アートが見られたり何か体験できたりして、楽しみとか驚きを与えられる。街なかで歩きながらできる冒険、みたいな。

歩いていてもつまらないから人が残らない。カフェはないのにチェアやベンチを置いたり、人が残りたくなるきっかけをつくってあげる。お店を出している人からすれば、人が来ればゴミも出るし、迷惑かもしれません。でも、街を歩いている人はみんなお客さん。お客さんは何がほしいんだろう、そこから考えてみる。自分は少し不便になるけど、10倍くらいになって返ってくるんじゃないの? って思う。

**マーク** AとBとCだけではなくて、その間をつなぐ。これでも昔に比べれば、ちょっとは面白くなってきたんですけど。最初はこのルートをやりましょと決めて、そこからだんだん他の道、公園、警察署 ..... と広げていって。

**アストリッド** 街をキレイにキープしようという決まりとか、運動はよくありますよね。でもだいたい、あれはダメ、これはダメって、厳しすぎて何にも許してくれない。そうじゃなくて、あれは面白くない、これは面白くない、って面白くないと怒られるようにしたらいい。もう、つまらないものはやめましょよ!

**みんなで同じゴールに向かえば、チェンジできる。**

**アストリッド** どこの街にも問題はあつしパーフェクトじゃない。だから、こういうふうにしたらもっと面白くなるんじゃないかという思いをぶつけて、アクションがとれるといいですよ。どんな小さなステップでもいいから、自分の力でまず何かはじめる。あんまり上のほう(行政)に期待するとどんどん遅くなつたり、予算が出なくなつたりするし(笑)。

六本木だつて、昔はデザインもアートも何もなかつたのに、今では毎週、当たり前のようにイベントが開かれてるじゃない?

**マーク** 私も、そういう小さいタネが大事だと思つます。PechaKucha Nightも、小さなイベントだつたのに世界中に広がつた。タネをまくから、だんだん大きいことができる。そろそろオリンピックも来ますから、今はすごいチャンスですね。

**アストリッド** 自分も含めて、何か「チェンジ」があると、みんなちょっと嫌がるんですね。ええーつて。建築をやつていて、役所の人と話していても、「私がいいと思つているんだけど、でも上司はね .....」と言われたり。そんなとき私は「じゃあ上司に会いましょ!」つて。あくまでみんな人間で、個人個人はいい人、ルールのうしろに隠れていていいの、よくないでしょう? つて一生懸命説明して、説得する。日本語でいうと「ネマワシ」ね(笑)。

**マーク** そういえば、この間設計した代官山の蔦屋書店もそう。あの建物ができたことで、すごく街が変化しました。それはほんとに。

**アストリッド** もちろん私たちの力だけじゃなくて、大勢の人たちの協力があつたから。そうやって、みんなで同じゴールに向かうと、チェンジできると思つんです。



#### 代官山蔦屋書店

2012年、旧山手通りに誕生した商業施設「代官山 T-SITE」の中核となる施設で、Tの字をモチーフにしたファサードが印象的。ジャンルごとに3棟に分かれた店内では、本・映画・音楽などを選びながらコーヒーも楽しめる。

#### 取材を終えて .....

プロジェクターに次々と画像を写しながら進められたインタビューは、まさに、本物のPechaKucha Night を見ているよう。ちなみに、アストリッドさんが「面白いことしかやっちゃダメ」と思いついたきっかけは、実は SuperDeluxe をはじめたばかりの頃にあったそうです。詳細はこちらで。(edit\_kentaro inoue)